

コンテンツ「おうちで天文科学館」や、 イベント、ギャラリートークへの オンラインの活用

明石市立天文科学館 学芸員 鈴木康史

1. はじめに

明石市立天文科学館は、日本標準時子午線上に建つ「時と宇宙の博物館」です。1960年に開館した当館にとって2020年は、開館60周年であるとともに、開館記念日である6月10日「時の記念日」が誕生して100周年となる記念すべき年です。ところが、2020年3月頃より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの集客が見込まれるイ



ベントは中止するとともに、新しい年度を迎えた4月からは臨時休館することとなりました。節目となる1年を盛り上げるべく、様々なイベントを計画・準備している矢先のことでした。

博物館として、「人と学びの場を」あるいは「人と人とを」つなげる役割を果たすために、休館中にも何かできることはないかと考え、4月上旬には「ソーシャルディスタンスはとりながら、心の距離を縮めよう！」をスローガンに、お家にいながら楽しんでいただける動画コンテンツを作成するとともに、そのノウハウを、オンラインイベントや特別展でのギャラリートークにも活用しました。その取り組みについて紹介します。

2. 動画コンテンツ「おうちで天文科学館」の配信

2020年4月11日より臨時休館が決定し、その後の見通しがたたない状況下で、博物館として、どのように情報発信をしていくべきか、模索を行っていた時、明石市シティセールス課より「緊急事態宣言が出ている中で、多くの事業がストップを余儀なくされているが、何か前向きなことができないかと考えています。例えば、YouTubeで発信することはできるか？必要な予算はこちらで用意します」といった相談がありました。これに応える形で、YouTubeによる動画コンテンツ「おうちで天文科学館」の配信が決定したのです。動画の配信と動画制作のため、シティセールス課が地元ケーブルテレビを手配してくれました。

「おうちで天文科学館」の配信画面



星座物語



こども天文教室



ブルー体操

当館には、時と宇宙を守るヒーロー・軌道星隊シゴセンジャーと、その悪役・ブラック星博士が活躍をしています。イベント時のキッズプラネタリウムを中心に登場し、クイズとダジャレを交えたかけ合い（戦い？）は、楽しみながら時や宇宙を学ぶことができると好評です。「おうちで天文科学館」では、シゴセンジャーたちも出演し、天文や宇宙のことを楽しく紹介しました。

主なプログラムは、シゴセンジャーレッドや職員が見頃の星や星にまつわる物語を紹介する「星座物語」、館長が館内の展示物をつかって解説する「こども天文教室」、そして、おうちでも運動ができるようにシゴセンジャーブルーが開発した「ブルー体操」です。その他に、ブラック星博士のダジャレコーナーや、当館のロビーにいる宇宙メダカの紹介など、できるだけ普段と変わらない雰囲気を楽しんでいただけるように心がけました。地元ケーブルテレビが、とても熱心に番組制作に取り組んでくれたこともあり、この取り組みは、市民にも、明石市役所内でも大変好評でした。

「おうちで天文科学館」は、4月17日の第1回からはじまり、全6回を配信しました。

主に、土曜日の午前9時に配信（公開）しました。日時を決めて動画を配信することで、視聴者が他の視聴者たちと同じ時間を共有する楽しみ・喜びへとつながります。また、おうちで過ごす時間が長くなる中で、定期的に配信した方が生活のリズムをつくりやすいと考えたからです。

特別編として、プラネタリウムでの星空案内や、キッズプラネタリウム「軌道星隊シゴセンジャー」のライブ配信も行いました。画面を通してではありますが、離れていても、普段と変わらないプラネタリウムの星空やシゴセンジャーのかけ合い、ブラック星博士のダジャレを楽しんでいただけたと思います。



プラネタリウム・ライブ配信



キッズプラネタリウム・ライブ配信

このような取り組みを1つ1つ実施していくことで、YouTube など、オンラインを活用して情報を発信していくノウハウを学ぶことができました。

3. オンラインイベント「時の記念日 100 周年」の実施

緊急事態宣言が解除され、6月2日より開館となりました。天文科学館 60 周年・時の記念日 100 周年となる 6 月 10 日に何とか間に合いましたが、例年、多くの来館者で賑わう時の記念日に、周年イベントを実施するのはさすがに困難です。そこで、記念イベントをオンラインで開催することにしました。

イベントは、第一部「セレモニー」、第二部「全国天文台子午線リレー」、第三部「プラネタリウム特別投影」の三部構成です。

第二部の全国天文台子午線リレーは、日本列島の東から順に、全国各地の天文台が、それぞれの太陽南中のタイミング（地方時の正午）にあわせて、中継をリレーしていくものです。実施にあたり、シンプルな日時計を製作、各施設に送りました。日時計でも南中時刻を確認するためです。東から順に、日時計の影が真北を示す（太陽が南中する）様子を観察することで、国内の時差を実感することができます。と同時に、施設によって影の長さが違うことにも気づきます。緯度による太陽の南中高度の違いです。

このイベントでは、なよろ市立天文台（北海道）、大崎生涯学習センターパレットおおさき（宮城県）、国立天文台（東京都）、富山市科学博物館（富山県）、明石市立天文科学館（兵庫県）、西脇地球経緯度科学館（兵庫県）、久万高原天体観測館（愛媛県）、南阿蘇ルナ天文台（熊本県）、

那覇市ほしぞら公民館（沖縄県）、石垣島天文台（沖縄県）の 10 施設から中継を行いました。まさに、オンラインだからこそ実現することができた企画だと言えます。

また、子どもたちも楽しめる記念イベントとして、6月13日（土）には、オンラインイベント「時と宇宙のクイズ大会」も開催しました。視聴者の方には、インターネットでクイズに回答をしてい



全国天文台子午線リレー（右下は手話通訳）



南中を示す日時計の中継（右下は手話通訳）



ただくことで、見るだけではなく、イベントに参加していただける工夫をしました。

4. 特別展「石で巡る太陽系展」ギャラリートーク

7月18日～8月30日の期間に、夏の特別展「石で巡る太陽系展」を開催しました。豊岡市にある、兵庫県最大の石の博物館・玄武洞ミュージアムとのコラボレーションによるもので、石を通して、太陽系の天体や太陽系の歴史を紹介する特別展です。期間中、12,276人の方が来館されました。当初、この特別展に合わせて、ギャラリートークや講演会を企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、どちらも中止となりました。

そこで、これまでに培ってきたオンラインイベントのノウハウを、特別展にも活用することにしました。やむなく中止になったギャラリートークを、いつでも楽しんでいただけるようオンラインで準備しました。玄武洞ミュージアムの学芸員・中嶋さんに、来館者のいない展示室でギャラリートークをしていただき、その様子を撮影した動画をYouTubeチャンネルで限定配信します。その動画にアクセスできるアドレスのQRコードを作成し、来館者に配布するパンフレットや、特別展の会場内にも掲示しました。展示を見学しながら、その場でギャラリートークを見ていただけるようにしました。

しかし、オンラインでのギャラリートークは、再生回数が伸びませんでした。アピール不足もあると思いますが、その他の大きな理由の1つとして考えられるのは、来館者が自由に利用できるWi-Fi環境が無かったことが考えられます。今後の課題です。

また、講演会が開催できない代わりに、当館の広報誌「星空のレシピ」の特集ページで、中

●特別展のオンラインを利用したギャラリートーク

玄武洞ミュージアム
学芸員中嶋さんの
ギャラリートーク動画

QRコードを添付
したパンフレット

QRコードを
掲示した展示室

特別展
石で巡る太陽系展

ギャラリートーク
地球を伴う石
～石で巡る太陽系～

特別展
石で巡る太陽系展

ギャラリートーク
太陽系の天体を
伴う石

AKASHI MUNICIPAL
PLANETARIUM
&
GENBUDO MUSEUM

玄武洞ミュージアム
学芸員
中嶋 灯奈 さんによる
特別展「石で巡る太陽系展」
の石の
解説も聞いただけです。
※Wi-Fi環境整備を要す
※撮影がスタートします。

中嶋さんからの
ご案内動画

中嶋さんによる特別展「石
で巡る太陽系展」の石の
解説も聞いただけです。
※Wi-Fi環境整備を要す
※撮影がスタートします。

こだわりの地球
を伴う石

太陽系の天体
を伴う石

太陽の周りに
存在する
生き物の化石

地球を伴う石
～石で巡る太陽系～

嶋学芸員に「石で巡る太陽系」について執筆をしていただきました。広報誌は、当館のホームページにも掲載しています。これもオンラインの1つと言えるでしょうか。

5. オンラインによる天体観望会

6月21日の部分日食や、10月6日の火星最接近、12月21日の木星土星大接近など、2020年にも話題の天文現象がありました。本来であれば、観望会を開催し、集まった参加者とともに観望するところですが、全てが、オンラインによるライブ中継となりました。

画面をとおしての観望会に、最初は不安や寂しさ、物足りなさを感じていましたが、YouTubeでのライブ配信では、視聴者がチャット

欄にコメントを書き込むことができます。視聴者からの書き込みのおかげで、離れていても一体感を感じることができました。また、チャット欄に質問を書き込んでもらおうと、質疑に回答をすることができます。ライブ配信でも双方向のコミュニケーションがとれることがわかりました。

チャット欄の書き込みには、遠方からの書き込みもあります。集客型のイベントであれば参加できない遠方の方々とも、距離を超えて時間を共有することができるのは、オンラインの大きなメリットの一つだと思います。



6月21日の部分日食ライブ配信

6. まとめ

新型コロナウイルス感染拡大は、一般の来館者のみならず、学校団体の利用や友の会の活動にも大きく影響しました。

理科で星や月の学習をする小学4年生の多くは、プラネタリウムで学習を深めます。来館できなくなった小学校が多い中、指導主事が中心となり、市内（あるいは近隣）の小学校向けに、オンラインによる授業をスタートさせました。

参加人数を制限して開催した友の会の行事（例会）では、録画した映像を後日配信することで、参加できなかった会員にも同じ内容を楽しんでいただける工夫をしました。

今、私たちは、コロナ禍での取り組みの1つ1つが、ノウハウとして蓄積されていくのを実感しています。オンラインだからこそ実現できるイベント、生まれるつながりもあります。博物館として、今できることを！

